

## 地球温暖化対策を巡る動向について

## 1 国際的な動向

## (1) 持続可能な社会に向けた国際的潮流

- 2015年9月 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」採択  
→ 複数の課題の統合的解決を目指すSDGsを含む。
- 2015年12月 「パリ協定」採択  
→ 世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃未満に抑えるとともに1.5℃に抑える努力をすることが求められる。

## (2) IPCC1.5℃特別報告書（2018年10月公表）

- ・ 人為的な活動により工業化以前と比べ現時点で約1℃温暖化しており、現在の進行速度で温暖化が続けば、2030年から2052年の間に1.5℃に達する可能性が高い
- ・ 将来の平均気温上昇が1.5℃を超えないような排出経路は、2050年前後には世界の排出量が正味ゼロとなっている。
- ・ パリ協定に基づき各国が提出した目標による2030年の排出量では、1.5℃に抑制することはできず、将来の大規模な二酸化炭素除去方策の導入が必要となる可能性がある。

## 2 国内の動向

## (1) パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略（2019年6月閣議決定）

- ビジョン
  - ・ 最終到達点としての「脱炭素社会」を掲げ、それを野心的に今世紀後半のできるだけ早期に実現することを目指すとともに、2050年までに80%の削減に大胆に取り組む。
- 基本的考え方
  - ・ ビジョンの達成に向けてビジネス主導の非連続なイノベーションを通じた「環境と成長の好循環」の実現、取組を今から迅速に実施、世界への貢献、将来に希望の持てる明るい社会を描き行動を起こす。

## (2) 地球温暖化対策計画（2016年5月閣議決定）の見直し

- 現計画の概要
  - ・ 中期目標：2030年度において2013年度比26.0%減
  - ・ 長期的目標：2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減を目指す
  - ※ このような大幅な排出削減は、従来の取組の延長では実現が困難
  - ※ 抜本的排出削減を可能とする革新的技術の開発・普及などイノベーションによる解決を最大限に追求するとともに、国内投資を促し、国際競争力を高め、国民に広く知恵を求めつつ、長期的、戦略的な取組の中で大幅な排出削減を目指す。

○ 見直し

- ・ パリ協定に基づく 2020 年 3 月の NDC（自国が決定する貢献）提出を契機として見直しに着手
- ・ 削減目標の検討は、エネルギーミックスの改定と整合的に、更なる野心的な削減努力を反映した意欲的な数値を目指す

⇒ 令和 2 年 9 月 1 日「中央環境審議会地球環境部会中長期の気候変動対策検討小委員会・産業構造審議会産業技術環境分科会地球環境小委員会地球温暖化対策検討ワーキンググループ合同会議（第 1 回）」を開催

(3) 菅内閣総理大臣所信表明演説（2020 年 10 月 26 日）

- ・ 成長戦略の柱に経済と環境の好循環を掲げて、グリーン社会の実現に最大限注力する
- ・ 2050 年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言。